

for adult only.



SONIC WINTER presents,
AMABURI Fanbook #2

「 OURS. 」



SONIC WINTER presents,
AMABURI Fanbook #2

「 OURS. 」



※本書は成人向けの内容です。

Preface



■はじめましての方も御無沙汰してますの方もともにこんにちは月島隆冬です。時間ないので飛ばして行きますが甘ブリ本の二冊目です。一応前回の YOURS の続きとなっていますが、あのあとちょっと思い付いた展開を盛り込んでみたので続編と言うよりは別ルートの後日談となっています。というよりははや独立した話なので前作持っていないという方でも安心です。(「本当は怖い〇〇童話」的なのをやりたかったんですが…もうちょい時間あればなあ。いや時間はあったんだけど4月入ってから大ブレーキでorz異常気象大迷惑)てなわけでお楽しみいただけましたら幸いです m(_ _)m

Circle Information 改



BOOK

「YOURS.」

SONIC WINTER presents.
AMABURI Fan-book

for adult only.



サークル「TRI-GO」は以下の三団体にて構成されています。

■月島 改の担当サークル「SONIC WINTER」では主に恋愛物 ADV やアニメ作品の二次創作同人誌を発行しています。内容は基本的にギャグやシリアスの一般向け漫画が中心。今後は夏冬コミケとwebにて順次作品を発表して行く予定です。

■半崎 蘭と月島改の合同サークル「SONIC WINTER 雪月環」では主にアニメ作品や美少女ゲームの成人向二次創作同人誌を発行しています。内容は比較的ソフトなH物が中心です。

■半崎蘭の担当サークル「雪月環」では主にアニメ作品の二次創作同人誌を発行しています。内容はややハードなH物中心です。

※昨今の社会情勢を鑑み当面は一般向けと成人向けをより厳密に差別化させた上でリリースの予定です。

「OURS.」

■というわけで今回のメインコンテンツ、甘ブリの新作マンガになります。ええ表紙が愛宕高雄なのにメインが甘ブリというちょっと表紙詐欺じゃね？…な感じですが諸事情によるものなので御容赦頂きたくorz…まあよろず本時は昔からこういう事結構多かったです（汗）10年前だとTH2の草壁さん表紙でメインはひぐらしのマンガとかorz

■で、内容に関しては昨年の冬に出した「Yours.」という作品の続編と言うか補完的な内容になっております。下にあらすじを載せましたのでお持ちでない方はこちらを下地にお読み頂ければ幸いです。（本自体は有り難い事に既に完売してしまっているのですが…余力があったら書き足して再販したいなあと）

■というわけで、御覧下さいませ m(_ _)m

from 甘木ブリリアントパーク



いやあ…まさか本当にオーケーしてくれるとはね

正直半信半疑だったんだが…こいつはいよいよマジ話って事か

い…ええ…私…私…私…自分の出来る事を…それが…

私の体を見返して要求するのよ…こんな下着で本格的大丈夫なの…？

…選定を疑う訳ではないけれど…本格的…こんな男が…

さて…じゃあ早速品定めと行こうぜへへ…まずは服脱いで貰おうか

…売春婦の真似事でも

承認したわ

私が処女を喪ったあの時から…



さて…そんな男が…行きますか

…っ…こんな男が私の中に…

見ろよ…もうこんなにギンギンだぜ…今から処女ゲットだったってな

…覚悟は…胎は決まってる…悪なのよ…

こんな男に…私…純潔を…

ま…待って…

や…や…や…私…その…

私…今更…

大丈夫大丈夫！ちゃんとして優しくするから

「Yours.」

王女ラティファの神託によって選定された一人の男。廃園の淵に立たされたパークの救世主となり得る筈のその男は、だがしかし下劣なる品性を持った好色漢だった。交渉の場に赴いたはずの美しい容姿、そして大きく膨らんだその胸元に目を輝かせた男は契約の条件として彼女の汚れなき肉体を要求、選択の余地の無い彼女は感情を殺してそれを受諾する。指定されたホテルに向かい下卑た男にその身を差し出す。湧き上がる嫌悪感と必死に戦う彼女だったが、いつしかその身体は男の愛撫に応え始め…

数日後、彼女は男の秘書となり、従順なる性奴となっていた。



やああ…っ…
おかしくなっ…
あ…ひッ—

ひあっ…あ…!!
そ…そんな深く…
ひゃあああっ!

あっあ…!

はめめんっ—!

ふあッ—
ひゃああんっ
…!!



へっ—
最初は乗り気じゃ
なかったクセして
随分とエロい声で
喘ぐじゃねえか?

あんっ…
だあってえ

聞こえるぜ
外まで—

かあ

支配人さんの…
す…凄いなもの
あ…だっ…
ああんっ…!!

ああんだめえ
わたしもう
もう……!!

ふう〜…
良かったぜ
全くよお…

清纯派っほい
顔してとんだい
ムツツリだない
お前

そいやあ…
そんな事

そうかい

……

OK—
そんなじゃあ
イクぜ…!!

まったくこの
ムチムチした体で
あのスケベ衣装は
反則だぜ

あんなっ!
うダメです!

ミュー…
シルフィ…

あああ…
あああ!!

ジャ
ッ

——…本当に
これでいいの…？
…わたしは…

せめてパークの
内部では…その
自重を…

まあ待てよ
ここでの行動にや
口を挟まないって
条件の筈だぜ？

！……
それは…

…このパークに
この男が訪れた
あの日から—

ふん…

別に聞いてやっても
いいが……それだと
こっちのモチベも
だだ下がりだぜ

ぶっちやけ…
この先の仕事は
保障できねえな

…っ…
それは…

…つまりなんだ
風紀の乱れとでも
言いたいのか？

ふん…大方最近
御無沙汰だったから
構って欲しいんだろ
—素直になれよ

かッ

いいぜ…久々に
可愛がってやる
からよ—

……
平たく言えば
そういう事よ

……
…あの日から
私たちは最早…
彼に依存して
しまっている

へ……こんな乳首……よく書……

そのデカイのでこいつを振いてもらおうかな！

……好きな……おっぱい……

このまま……

この触れまじ最高だぜ……？ たまんねえ！

おし……じやあお言葉に甘えて

……なんて……噂のなの……

うおつ……！

あの日——私はこの男に全てを託し……そして「秘書」となった

契約の条件として彼に提示されたこの身体を——処女を捧げ……

パークの経営再建と引き換えに……秘書の肩書きをもった愛人性奴となった。

へへ……もう大分いい感じに馴染んできたっほいな……初めてだったのに

……おっぱい……

……おっぱい……

その事自体に後悔は無い——姫殿下をお救いする為ならば……わたしは耐え忍ぶ

……彼が他の女性達に手を出そうと……それで彼女達が悦ぶ以上……何もいえない

——だけど私は本当に……あの時……

そうかも……知れないわね

……そうね

正しい選択をしたのだろうか……

HOTEL エクセラ ……あの日

へへ…確か中で
出してもいいって
話だったよな？
んじゃー

遠慮なく膣内に
ぶちまけさせて
貰うぜー！

ち……！
膣内射精……！
される……！

こ……！
この男の精液が
私の中に……！

っ……うらあああ！
たっぷり出すぜえ
……！

そう……あの
処女を喪った日から……

ああ……だめ……
出さないで……

うおっ凄ええ！
止まんねえぜ
……！

届いてしまっ……
精子が……！
……妊娠……する……！

……ッふう……っ
へへっ
……最高だ

良かったぜ……
最高の報酬だ

あんたの処女と
身体はよ……

……あ……

ふう〜…

あの日わたしは
初めて—
…男に抱かれた

…汚れた…
汚された…

ほあ

ほあ

ほあ

ほあ

〜
〜
〜
〜
〜

これでめでたく
女になった訳だが…
どうよ？ご感想は…

へへ…こっちはもう
最高だったぜ…
これだけいい女の
最初の男なんてよ！

…こんな下衆に
純潔を—
…わたしは…

…契約の条件として
求められたこの身を
…処女ごとこの男に
差し出した…

へへ…
男冥利に
尽きるぜ

苦痛と屈辱感…
恥辱と悔しさが
心中で渦を巻く

しっかし…
へへへー

これで姫殿下が
救われるのなら
安い物…
そう考えていた

でも全ては私の
失策が招いた事
…そしてこれが
わたしの任務…

初めてとはとても
信じられない様な
イイ反応だったぜ

…さて

…問題は…その後だ

っつー事でえ
へへ…それじゃ
早速

第二ラウンド
開始と
行きますか！



うー……
うそ……まさか
そんな……!!

ま……待って!
お願い……少し
時間を……

痛い……
……痛くて……

……!!

安心していいぜ
すぐに気持ちよく
させてやるからよ
——こいつでな

い……今射精した
ばかりなのに……
あんなに大きく
……!!

まあそりゃ
そうだろうなあ
だがよ……へへ

ぬる

ぬる

ぬる



な……何を……
今……何を……

……ッ……何を
飲ませたの
……!!

へ——
まあすぐに
解るって

え……??

……!!

じゅ

ふん

な……
何……?

何を…何を
飲ませたの
……？

なんだよ
判らねえのか？
仕方ねえなあ

こんな効力の
薬なんて……
！まさか……

か——身体が……熱……

あ……

こいつはな
ドーリの実
だよ……ほれ

苦痛の軽減と
催淫の効果で
処女向けの定番
おつと……

痛みもだんだん弾いて……
か……痒——ツ……

そいつを……
ちよこつと
だ……
弄く……
った……
なあ

な……何故……
そんな物を……

……この男が……
向こうの事を……

あ……！

苦痛が——そ……
搔痒感に……？

……ツ——！！
あ……あなた……
一体……っ……！！

あ……な

へへ……まあ
誰だっていい
じゃねえか

そんな事より
愉しもうぜ！

むっ

へへ…こっちの方
はもう素直にな
ってるぜ？

あ

やらしい糸
引いてやがる

…！

や…やめて…！
そんなの…っ
違…！

さっき初体験
済ませたばっか
だったのになあ…
やらしい女だぜ

駄目
か…身体が…
言う事を…！

違わねえって
乳首もココも
言ってるぜ？

駄目…あ…
堕ちては…

…なあ

早いとこ素直に
なっちまえって…
速攻でキモチよく
してやるからよ！

…っ

わ…わたし…
わたし…は…

へへ…！…
入れて欲しくて
仕方ないんだよな
イスズルハは

こんな…く…
薬の力なんか
…負けたら…

今…なんて…？

…イースブルハ

ああ…
そうだ…わたしは…
姫殿下の近衛…

——ラティファ様を
お救いするのが使命…
その為にわたしは…

——わたしは…
この男に…身体を…
それが我が…務め…

千斗いすずは…
もう…この男の
物…

もう身体を…
純潔さえ捧げて
しまった…

…わ…私…

…今更拒んだ
ところで…
取り返しは…

…

…う…

挿れて
…下さい…
…その…

…貴方の物を…
わたしの…あ…
…秘所に…っ

敗けた

あ

私は…

オーケー
よく言った
それじゃ…

へへー！
いい尻だぜ

もみ

もみ

あ…！

そのでっかい
ケツをこっちに
向けな

わたしは…
卑しい女だ

むっちりとして
それでいて張りが
ある…形も手触りも
極上の逸品だな

じわ…
じわ…？

じわ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

さて…
行くぜ

硬い…熱い
ああ…
入ってくる

……ッ

わたしの…なかに…ッ！

へへ…
いい感触だぜ
たまんねえ！

ああ……

またひとつに
なっちまった
なあ…俺達

いい感触だぜ
あんたの尻—
それによ…へへ
最高の気分だ!

お尻をこの男に
向けて…まるで
犬みたいに…
こんな…

屈辱的な
格好で…っ

…わたし…
この男と…
一つに…

こんな極上JKを
こんなふう to 犯れる
なんてなあ…
男冥利に尽きるって
もんだぜ…!!

あ…!

…!!
大きいので
擦られて…

へへ…なあ
そっちも気持ち
いいだろ?

な…中が…
…気持ち…

御所望のモンで
膣内をグリグリ
掻き回されてよ

へ…強がるなよ
息が段々と
艶っぽくなって
来てやがるぜ?

そんな
事…っ

白状しちまいな
痒いのを擦られて
気持ちいいって!

そう…さっきは
苦痛でよく分から
なかつた感触が…
はつきり分かる

わたしの膈内で
この男の大きな
物が…蠢くのが

力強く遅しく…
わたしの膈内を
開拓して行く—
わたしの体が…

ああ—…
これが…これが

…わたしが…
この男に開拓
されてゆく…

あっ…せ…
セックス…っ

ああ…
下品な事を
…

ッ—!!
それをわたしの
口から…!!

あ

あ

あ

そうかい
…んじや
聞くがよ

つまりそれは
どういう行為
なんだ…?

……?

つまりよ
俺たちは
今…

子作りに精を
出してるって
訳なんだな

そんなの…
せ…生殖行為に
決まって…



かあ

ち…
違っ…!

へへ…いい
実にいいねえ
生殖行為!

その事実を
認識させる
ために…!

ちがうっ!
そんな事絶対…
わ…わたしは!
わたしは…
そんな…!!

この体勢だと
余計その言葉が
実感できるぜ!

へ…確か中で
してもいいって
たったよな？
んじや

ここの男の精液が
私の中に…

あ……

ああ…だめ…
出さないで…

そう…これは
紛れもない…
生殖行為…!!

っ…うらあああ!
たっぶり出すぜえ!
…!!

さつきも私…
膣内で射精を
…!!

ムッ

せ…精液が…
この男の精子が…
わたしの中に…!!

ああ……

はっ

こ…このまま
抱かれ続けたら
その先に待つて
いるのは…
に…

いいや…

ん

嫌…!!
それだけは…
それだけは…
わたし…ッ!!

や…やめて…
離して—
お願いよ…!

いまさら
暴れるな
って…!!

そうやって
嫌がられる
とよ…へへ

こんだけ感じ
てるって事は
つまりお前の
身体が…

ほ…本当に
取り返しが…

だめっ…こ…
子供なんて…
絶対—…!

逆に種付け欲を
掻き立てられち
まうんだよなあ
—それによ

そうされんの
喜んでるって
証拠だぜ?

ち…ちがう…
そんな事絶対に
有り得ない…

まあ
確かに

いかにも種付け
して貰いたそうな
身体だよなあ—
この乳と尻はよ

この肉付き…
この腰周り…
たまんねえぜ

い…いや…
言わないで…

—なのに
どうして…
一体どうして
わたしの体は…

嫌あつ…

おっと…

や—
やめて!
膣内は…

てな事言ったら
一気に—へへ
またガツツリと
中に出してやる

…わたしは…
…こんなのにも…
…受け入れて…
…しまおうの…?

お…お願い
許して…!

無理だって
っ…そら!
出すぜ—

へへ…
もう

!あ…
ああ…

駄目っ—
ダメえええ…っ

ああ…
っ…

ふうっ…
最高だぜ…
まったくよ

よお…遅かった
じゃねえか

そう…あの日から私は…
この男に逆らえない…

彼が何者か…疑念を
抱きながら…

…判ったわ…
上手くは
出来ないけど

それがわたしの使命で…
…望み…なのだから

だから…私自身は構わない
だけど…本当に私は…

ぷる

わたしの選択は
パークの…

いいぜ…その
身体と表情で
充分満足だ

まったく待ち
くたびれたぜ！
ペナルティだ

きん

へへ…ストリップ
ショーでもやって
貰うとするか！

それでも…彼に抱かれ
続ける…

姫殿下の為の…正しい
行いだっただろうか…

END

「OURS」 May,2.2015

Presented By: SONIC WINTER
Produced By: 月島 隆冬
Printing Office: ねこのしっぽ 様

mail: takka@comet.ocn.ne.jp
URL: http://www9.ocn.ne.jp/~sonic-w/